

〔研究所記事〕

当研究所が発足したのは1981年4月1日のことであった。その時以来所長を兼任されていた二宮淳一郎教授が1990年3月31日付で定年退職された。1990年4月1日付で下記の者が研究所職員として任命された。

所長	教授	工藤	茂
研究員	助教授	仲嶺	真信 (美術史)
〃	〃	利光	正文 (東洋史)
〃	〃	友永	植 (東洋史)
〃	〃	滝口	直子 (文化人類学)
運営委員	教授	後藤	重巳
〃	〃	岩尾	秀樹
〃	〃	村上	允英
〃	〃	井上	富江
〃	〃	黒田健二郎	

上記職員のうち研究員の滝口直子助教授が1991年4月大谷大学へ転出。1991年度の研究員は三人であった。

1990年7月10日から7月19日まで、別府大学中国歴史文化研修団 (団長工藤茂研究所長、副団長荒金信治講師、書記長友永植研究員、国文学科学生12名、史学科学生15名、英文学科学生1名) が中国を訪問した。その日程は以下の通り。

7月11日～13日 上海復旦大学において中国の歴史・文化・書道を受講。上海市街 (博物館・玉仏寺・墨工場等) 見学。

7月13日午後、杭州へ。

7月14日杭州—紹興—杭州。蘭亭・魯迅記念館見学。

7月15日杭州—上海—西安。

7月16日～17日 西安 (華清池・兵馬俑博物館・大雁塔・碑林・乾陵・昭陵等) 見学。

7月18日西安—上海。上海市内視察。

なお、工藤茂研究所長は7月15日一行と分かれて北京に飛び、以下の日程で国際交流をはかった。

7月16日午前、北京語言学院訪問。胡書経副院長、焦鋒、周炳琦の諸先生と面談。午後、中国科学院古脊椎動物与古人類研究所訪問。李伝夔副研究所長、呉新智教授と面談。北京原人の頭骨の化石などを見学。

7月17日北京自然博物館訪問。周明鎮館長、周国興副館長、呉章廉業務科副科長と面談。1988年10月8日から展示されている「人之由来」展を見学する。同展には「黄色人種の由来」の中に「日本人の由来」のコーナーが設けられている。これは当研究所の協力によって設けられたものである。

7月18日上海で一行と合流。

1991年6月27日～28日岡山ロイヤルホテルにおいて「平成3年度留学生交流研究協議会 (西部地区)」が岡山大学主催で行われ、工藤茂研究所長が出席した。協議会は全体会と部会に分かれ、部会は、交流部会、教育指導部会、生活部会の三つになっていた。この全体会と教育指導部会に出席し、留学生、特にアジアからの留学生との交流についての討議に参加した。